

釣れ釣れなるままに

1996年思い出の釣行記 PART. 2

ありがとうお師匠様



鹿島釣狂

## 釣遊会第2回大会

☆開催日	平成8年5月5日		
☆開催場所	寿都港～千早港		
☆入釣場所	豊浜大岩場		
☆潮	干潮	22:22	-3cm
	満潮	05:29	18cm
	干潮	10:07	11cm
☆釣果	アブラコ	430mm	3
	ホッケ	360mm	2
	重量	2980g	
☆成績	合計点数	1108点	
	成績	6位	

### 仕掛けは万全？

5月5日、第2回大会に参加する。今年は3日から6日までと4連休であり、いつもとは違いかなり余裕がある。エサの準備も万全であり、イカゴロや撒き餌もシャーベット状ではなく、程よい匂いを発している。前回の大会では、途中で変更したねらいのアカハラが掛からなかったため、仕掛けも上針に天秤を装着しハリスも長めにした。前回身長優勝者の前野氏の仕掛けを真似たものだ。彼は何時でも自分の仕掛けを惜し気もなく披露してくれる。釣遊会に入会した当初、市販の胴付き仕掛けしか使用しなかった私にとっては本当に有り難いご師匠様である。

沢山の方からご教授を受けているうちに、私の仕掛けもあっちにヒラヒラ、こっちにキラキラと際限なく飾り立てることを余儀無くされた。「根がかり防止に棒錘をとぐろのようになるとよい」と言われれば早速そのようにし、「ハリスは、太平洋が短く日本海は長めに」と言われれば次の例会には用意していく。「ゴロ針の間隔は少しゆとりを持ったほうが、吸い込みやすい。」といわれれば、『魚はエサを吸い込んで捕食するものなのだ』ということも初めて理解する。基本はやっぱり胴付き仕掛けだと思いながらも名人たちの獲物を披露されると心が動く。

### ありがたきは先輩かな

今回の釣り場範囲は寿都港～千早港である。私は弁慶岬の先端に行ってみたいと考えていた。集合場所に着き西川氏に相談すると、弁慶岬は海草がなく難しいとのことで、あっさり方針を変更する。やはり、バスの中での情報収集となる。佐々木氏は最近貴社が発行された航空写真による釣り場ガイド『KOAST. GUIDE』を持参し、懇切丁寧に教えてくれる。嵐氏に自分の釣行にもとづくさらに詳細な解説をいただき、今回は豊浜郵便局前の大岩場に出ることにする。

例会のバスの中で最初に配布される貴社発行の『釣場ガイドマップ』のコピーを見ると次のように説明している。

以前通称金子商店前と呼ばれた所で、道路寄りが水溜まりとなり、前方が小高い岩場である。岩と岩との間に大溝があり最前列の岩の間には特に深く幅もある。右側の先端の岩には渡れず、中央から左側が渡れる。好ポイントは左側の先端で、アブラコ、カジカ、ホッケなど。なおシケた時は大岩場左側で、舟入潤との間の溝状でカジカ、ハチガラが釣れる。

## 数としてはまあ満足

大平川の雪白水が心配であるが、郵便局前で下ろしてもらおう。今回は一人だ。あまりたくさんの方がいても困るが、独りぼっちとなるとチト寂しい気もする。解説通りの溝が幾つもあり、海水を漕ぎながら平盤の真ん中の大きな岩付近で迂回して2番目の出岬の先端に出る。足下の岩の周りには昆布がびっしりと付いており、20m程先の隠れ根が長〜く黒々とした横帯状になっている。離れ岩正面は右からの強風で道糸が岩に擦れるため投げることができない。出岬の右と左に投げ分けてアタリを待つ。

すぐに、右の昆布根に打ち込んでいた竿にアタリがある。上げてみると35cm程のアブラコである。うん、まずまずだな……。続けて左の小さな溝に投げ込んでおいた竿にもアタリ。ガッ、ガッツと大きく竿を持ち上げる。意に反して上がってきたのは小さなカジカである。「これは海にお帰り願おう」とも思ったがやはり5匹釣れるまでは不安である。フラシに入れて生かしておく。さらに33cmのアブラコ。今日は幸先が良い。

しばらくアタリが止まった後、5時ごろアブラコの43cmが来る。ホッケも来て2魚種5尾になったところで今日はもうこれでよし。あとは赴任した職場への御土産としてホッケねらいでウキ釣りに変更する。終了までに26匹のホッケを上げる。

## 次回に期して作戦を

私の成績は1108点で6位となる。これで2回連続の千点越えである。優勝はまたまた嵐氏で1237点。準優勝は佐々木氏で1214点、3位は岡氏で1158点。身長賞は44.2cmのアブラコを釣った堀内氏であった。

今回は職場への御土産として魚を持って行けたことが何より嬉しい。上司にもお裾分けをし媚びを売る。同僚にも恩を売る。次回の大会もこれで悠々と参加できるはずである。また、そうなることを願っている。

見え透いた下心が仇となる？ いやいや磐石なり！